

櫻だより



氷見市立北部中学校
校長室から
令和6年5月13日

節ありて〇〇強し

修学旅行、そして1、2年生の校外学習が無事に終わり、ほっとしています。
校外での活動、ましてや宿泊を伴う場合は、何かしらアクシデントがあるもの。
大きな事故や病気もなく、無事に帰校できたことは、これまでの指導の賜と生徒のおかげ。
各学年において綿密に準備・打合せを行ってきた成果です。お疲れ様でした。

さて、3年生修学旅行最終日、薬師寺のお坊さんの話

「君たちはいくつだ？ 15か。節目だな。

人生にはいくつか節がある。節の時に選択しなければならない。

人生は選択だ。人生がいい方向に転ぶかどうかは、いい行いができるかどうかだ。」

とても楽しく、そして学びの多い話でした。

ユーモアを交え、聴衆（生徒と教員）を巻き込み、テンポよく話を進めていく。

「おい、よく聴け」とちょっと乱暴な口調も織り交ぜながら、引きつけていく。

予定では30分程度の講話だったのに、45分も語られたらしい。

そんな時間を感じさせない語りでした。

生徒の聴く態度とレスポンスが良かったから、45分も語られたのかもしれない。

15歳の節目の生徒には、考えることも多かったのではないだろうか。

といつつ、還暦の節目が間近に迫ってきた私にも、学ぶことが多くありました。

どういう選択をするか、その選択も大事だが、問題はどのような選択をしても、その後の行いが大事だということ。

今後、どのような選択をし、どのような結果になっても、「いい行い」を心がけたい。

学びが多かった修学旅行の翌日、積ん読してあった本を手を取った。

その中に国見高校サッカー部総監督だった「故 小峰忠敏氏」の言葉があった。

台風が去った後、「あれを見てごらん」と母が指した方向に、大木が何本も折れて倒れていた。一方で竹やぶの竹は一本も折れていない。

「竹には、ところどころ節がある。だから強いんだ。人間も遊ぶときは遊んでいいが、けじめをつけて、締めるところは締めないといけない」と教えてくれた。

『節ありて竹強し』だと感じた。

「節ありて竹強し」であるならば、人間も節があるから強くなれるのでは？

「節ありて人強し」となれるよう、節目節目の選択で強くなっていきたいものです。

さてさて、修学旅行と校外学習、皆さんはどんな学びがありましたか？